



メルマガより転載(3月17日配信)

東北関東大震災での被害の拡大に、本当に心を痛めております。

改めて、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、一人でも多くの生存が確認されますことを祈っております。

本日の党の東日本巨大地震緊急災害対策本部で明らかになりましたのは、この瞬間、40数万人にも上る被災者の方々にとって最も深刻な問題は、燃料がないことです。もちろん、水、食糧、医薬品等々あらゆるものが不足しているわけですが、今、最も深刻なのは、ガソリンなどの燃料だということです。燃料がなければ、医薬品や食糧があっても、届けられないからです。

また、自らも被災者となった気仙沼在住の衆議院議員の小野寺五典氏が強調しておりましたが、燃料がないために暖房がなく、雪の降る東北で毛布だけで過ごさねばならない。食糧がなくても当面生きていけるが、こちらの方が命に直結すると。

また、福島原発の避難区域から脱出しようにも、ガソリンがなくて避難できないという悲痛な声も聞きました。

このたびの震災で、6ヶ所の製油所が生産ストップとなり、全国的な製油能力は7割に落ち込みました。このうち3ヶ所は数週間で生産再開可能とのことですが、残りの3ヶ所は生産再開まで半年から1年かかるとのことです。ただ、他の製油所での生産増で、何とか需要は満たせるのですが、問題は、輸送です。

これまで、仙台港までタンカーで石油製品を運んでいたのですが、仙台港が壊滅して使えなくなったために、秋田からタンクローリーで山脈を越えて輸送するという手段を取っておりますが、なんせタンクローリーの数に限りがあるわけです。また、せっかくガソリンスタンドにローリーが着いてもスタンドが閉まっていて渋滞になっているという本当に笑えない話もあります。関係者の方々の努力が何とか現場に届くように祈るような気持ちです。

さて、私も、自民党の政務調査会の事務局長として、このところ不眠不休でこの国難に対処してまいりました。

震災対策に、与党も野党もありません。何とか協力してやっていきたいと私は思っております。

わが党は、これまで多くの災害を乗り越えてきた経験・ノウハウがあり、また全国のネットワークから様々なアイデア、生の声が寄せられております。これらは自民党の貴重な財産であります。この財産を何とかこの国難に生かしていきたいという切なる思いから、昨日民主党政権に対して、多くのことを提案させていただきました。

例えば、阪神淡路大震災のときに、震災担当大臣というのを置きましたが、そういうものを今回も置くべきだという提案をいたしました。

また、福島原発対策と、それ以外の震災対策は性格が全く異なる対策であるので、官邸の指揮命令系統を、原発対策と津波・震災対策の二つに分け責任体制を明確化すべきというものも含まれております。枝野官房長官が両方を担当するのはなかなか大変なのではないでしょうか。

細かい話では、官房長官の記者会見に、医者と放射線の専門家を立ち合わせるべきというものもあります。枝野長官の両脇に、お医者さんと放射線の専門家が立って頷いていたら、どれだけテレビを見る方々は安心するでしょうか。

そのほか、これまでのわが党の経験から、本当に実践的な提案がたくさん盛り込まれております。少しでも多くのものを民主党政権が取り上げ、震災対策の実効性が上がっていくことを念じてやみません。

ご関心のある方は、自民党HPのトップページの「最新の政策提言「政府に対する当面の申し入れ事項」」(詳細はこちら)をご覧ください。幸甚です。

昨日は、東京電力の電力需給が逼迫し、帰宅の電車など多くの方々に深刻な影響が出ました。そこで、今後、停電はどうなるのか、かつて、さいとう健は、資源エネルギー庁でまさに電力の需給担当課長をしておりましたので、少しでもご参考になればと思い、メールさせていただきます。結論を先に申し上げれば、最低でも半年以上厳しい状況が続くのではないかとことです。ばたばたしておりますので、乱文ご容赦いただければ幸いです。

今回の大震災で、東京電力の供給力は、3200万kw程度にまで落ち込んでいます。この時期の需要は通常4100万kw程度ということなので、ざっくり1000万kwの供給不足となります。これは、相当に大きな数字です。このため、現在、輪番停電が行われております。

では、どうしたら供給力が増えるのか。

手っ取り早いのが、他の電力会社から融通を受けることです。しかしながら、東京電力の場合は、周波数が異なっているために、静岡県の富士川以西からの融通を受けることが基本的に難しい。西からの電力融通を受けるためには、富士川で周波数を変換する設備が必要になりますが、これが現状では90万kwの容量しかないのです。以前、私も当該施設を視察したことがあります。巨大かつ複雑な施設でありまして簡単に増設できるような代物ではありませんでした。

従いまして、中部電力や関西電力などで電気が余っていても東京電力には90万kw分しか送れない。

そこで、周波数が同じ東北電力、北海道電力から融通を受けることにはなりますが、今回は、その東北電力からの供給が全く期待できません。北海道電力も、津軽海峡の海底ケーブルを通して供給できる電力量は60万kwにすぎません。

従って、供給を増やす手段としては、停止中の火力発電所などを改修するなどして立ち上げるしかないのですが、それも、東京電力によれば、数週間で170万kw程度とのことです。ですから、5月頭ごろになっても、大幅な供給不足は続く可能性は高い。

さらに、夏ごろまでに新たに供給できるのは1000万kw程度だということですから、夏の時点での供給力は、4300~4500万kw程度かと推測されます。

ところが、電力需要は、夏がピークなのです。通常では、5000万kw台、6000万kw台の需要がありますから、電力不足は長期化することが容易に予測されます。つまり、輪番停電が相当長く続くことを覚悟しなくてはならないかもしれません。

以上は、全くの個人的見解です。

現在、東京電力が電気を供給している地域には、約4500万人の方々がおりますので、経済や生活に与える影響も大きい。

今後の動きを注視していきたいと思っております。

さいとう健メルマガでは、最新の地震情報も含め、ご登録を頂いている皆様へ随時お知らせしております。登録ご希望の方は、さいとう健ホームページよりご登録頂けます。ご不明な点は下記事務所までお問い合わせ下さい。

さいとう健 後援会事務所(千葉銀行裏)  
〒270-0137 流山市市野谷665-40-103  
TEL:04-7157-6223 FAX:04-7157-6224  
E-mail: info@saito-ken.jp

さいとう健  
モバイルサイトは  
こちらから ⇒

<http://www.saito-ken.jp/m/>

